

2011年度 冬季研修会 報告

2月4日、たかつガーデンで冬季研修会を行いました。午前・午後6つの講座に、約250名の参加がありました。どの講座も参加された方みんな熱心に受講され、これからの実践に役立てていこうとしておられました。講師の皆様、各支部から来られた役員の皆様、本当に有難うございました。

各講座の内容報告とアンケートの集約をご覧ください。講座によっては、定員を超過し、何人もの方にお断りをさせていただきました。申しわけありませんでした。これからの研修の機会には、ぜひご参加ください。

A. 発達支援と教材教具 ～経験の少ない先生方のための

支援教育の教育実践 櫃ノ上進氏 (交野支援学校四條畷校)



櫃ノ上先生の教材はすべて手作りです。「触って分かる世界」「見て分かる世界」「言葉で分かる世界」の3つの世界に住む子どもたち一人ひとりが生き生きと活動できることで成功体験が得られるよう考えられています。

触覚支援を大切にされ、感覚から言葉・イメージへ、立体から平面へと無理なく認知を伸ばしていけるよう考えられた素晴らしいものばかりでした。

百均で購入できる手軽な教材を使って、子どもたちが興味を持つような色鮮やかな教材教具が作られています。すべてが標準化され、同じ容器を使って収納し、子どもたちが自分で選ぶことができるなど、様々な工夫をされていました。

会場にとっても多くの教材教具を持ってきていただきました。実際に触ってみることができるように置いていただき、説明されたことがとてもよく理解できました。お手伝いをしてくださった方にも改めてお礼申し上げます。

講座の終了後も、多くの参加者が教材教具を体験されたり、写真を写されたり、講師の方へ質問をしておられたりしていました。



B. 4月からはじまる新しい障害児福祉

小尾隆一氏 (大阪手をつなぐ育成会理事・事務局長)

育成会について概略の説明の後、障害者等の地域生活支援に関わる新しい法律のこと、制度変更に向けての過去2年程度の動きや、次のような要点について説明していただきました。

- ① 施設から地域へ、 ② 官による福祉から「新しい公共へ」、
- ③ 行政処分＝措置から契約利用へ、④ 対処療法から計画実施へ、
- ⑤ 手帳認定からニーズ中心へ ⑥ 権利法制の整備、
- ⑦ 財源の社会化、 ⑧ 自立の概念の再構成



支援学級等で学習している子ども達に関わっては、これからは障がい手帳がなくても福祉サービスを受けることが出来ること、放課後デイサービスが小中学生にも利用出来るようになることなどを話していただきました。

参加者からは、放課後デイサービスについて、多くの質問が出されました。手帳の有無にかかわらずニーズがあれば利用可能ですが、利用時間や事業所の受け入れ体制等により不明の部分もあるとの回答でした。サービスには、給付型と減免型があり、給付型には手帳が必要ないが減免型には必要との説明があり、具体的には、高速道路や映画館、NHK受信料の減免には手帳が必要とのことでした。なお、各市町村で具体的な福祉サービスが異なることがあるので、確かめて下さいと付け加えられました。

支援教育に携わる者にとって、日頃の支援に心がけなければならないこととして「自立」があります。自立とは「最善決定の支援」「意志決定の支援」であり、経済的あるいは身体的なものに限定されるものではありません。本人の気持ちを尊重しながら将来に向けての支援に留意しなければならないとお話を聞く中で感じました。（註：「障害者総合福祉法（仮称）」について、今年4月から施行されるだろうとお話されていましたが、2013年8月施行が目標となり、4月の実施は出来なくなりました）

C. 支援を必要とする児童・生徒の性を考える

中村昭代氏、中野智恵氏（大阪手をつなぐ育成会 相談支援員）
大橋一予氏（発達障がいの会 八尾）



中村昭代氏からは、相談支援専門員という立場から次のようなことをお話していただきました。性教育は性の健康教育であり、児童・生徒の生活や自立とは切り離せないものである。性教育においても、最も大切なことは、基本的な生活習慣であるとお話してくださいました。

大橋一予氏からは、43歳になる自閉的傾向のあるお子さんを育てた経験を基に、母親の立場からのお話をしていただきました。息子さんの成長過程での学校など教育機関や福祉施設との連携の状況などとともに、息子さんの自立に向けて、しつけや性の問題など取り組まれたことがらについて具体的な内容をお聞かせいただきました。その中で、父親の存在の重要性もお話しされました。

中野智恵氏からは、相談支援員として、日々、相談を受けられるたくさんの方がらの中から、さまざまな年齢層で起こっている問題を提示していただきました。そして、受講者を含め全員で、ことがらをどのようにとらえ、見通しが立つように助言していくかについて、考える機会を作っていただきました。

長きにわたり、障がい者に寄り添ってこられたお三方のお話は学ぶことばかりでした。講座が終わってからも、長い時間、個別の相談に応じていただきました。

D . 心理検査 (WISC - III) 理解と活用

～アセスメント実践研修～

瀧本一夫氏 (守口支援学校)

いわゆる知能検査というものについて、一部には「知能指数で子どもはわからない」という意見があります。確かにビネー式など初期の検査には知能指数だけを示すものがありました。しかし、現在使われている発達検査は、言語性・数処理能力・社会性など、種々の側面から総合的に理解しようとするものです。

今回のテーマの WISC-III は、広く使用されており、私たち支援教育に関わる者にもなじみの深いものです。検査結果と指導、言語性 I Q ・動作性 I Q、そして全検査 I Q についてご説明していただいた後、それぞれの I Q の下位検査とその組み合わせから、子どもたちを理解し、どう指導に役立てるのかについて、説明をしていただきました。

後半は、小学校 6 年生の女の子について、保護者からの主訴と背景となる情報、検査中の様子や WISC-III プロフィール分析表を示していただき、参加者が 4 名程度のグループに分かれて、お互いの分析について話し合いの時間を持ちました。同じ資料からでも個々人により異なる理解が示され、お互いの着目点がよくわかりました。そして、瀧本先生から総合解釈と指導方針が示されました。

質疑応答の中で、「被検査者が疲労や集中力の欠如のため、すべての検査ができなかった場合は、検査をどのように理解すればよいのか」ということに対して、「WISC-III としての正しい分析はできないが、行うことができた検査の範囲内で、その子どもの理解を行えば、指導に役立てることができる」というお答えをいただきました。



E . TEACCH プログラムを知ろう、TEACCH プログラムの

アイデアを活かそう

浅井郁子氏 (堺市立上神谷支援学校)

臨床発達心理士・自閉症スペクトラム支援士としてもご活躍の講師の方からお話をしていただきました。TEACCH プログラムとは何か? TEACCH の歴史は? TEACCH センターの役割は? と、ご自身の留学された時のお話も織り交ぜながら、本質的な考えや理念を詳しく、わかりやすく説明していただきました。

TEACCH の 9 つの理念 ①自閉症の子どもの行動や認知の

特性を客観的に観察し、自閉症の特性を理解する→実証から評価する

②保護者と専門家が協力する→連携

③地域社会の中で自分らしく生きていくことを目標とする

④個人の違いを知るための正確なアセスメント

⑤構造化された指導法の活用→適切な支援

⑥認知理論と行動理論を重視し、支援の方法を考える

⑦スキルを伸ばすと同時に弱点を受け入れる→認める・ほめる



⑧全体的な見方を重視する ⑨生涯にわたるコミュニティに基礎を置いた支援

そして、TEACCH の構造化のアイデア、支援の具体的方法について、事例紹介していただきました。自閉症の人が社会の中で有意義に暮らし、できるだけ自立した行動ができるよう支援することが TEACCH プログラムの目的であり、その人を理解し支援方法を考えていくことが TEACCH の本質であることがわかりました。また、私たちの実践現場においては、支援する側の常に柔軟で前向きな対応が欠かせないと実感しました。

F. 教室でできる特別支援教育

上嶋 恵氏 (子どもの教育研究所所長)

日ごろ教室でよく見られるが見過ごしがちな子ども達の問題行動について、実態を明らかにし、何が問題で、どう支援していけばよいかをお話いただきました。子どもの行動などの変容から学習力を変えていくのではなく、子どもの学習力変容から行動や学習の問題や社会性をも変えていくという、目からうろこ、そして納得のいく上嶋先生のご実践でした。



それは、「見る」「聞く」というもっとも根本的な学習のための力を伸ばす指導に重点をおく指導法です。先生が繰り返された「できるだけ早いうちから支援し、子どもたちが将来仕事に就けることが目標」は、教育に携わる者たち皆が心する目標だと再確認しました。

参加者も、ワークで「見る」「聞く」の様々な課題の集中トレーニングを行いました。トレーニング中に集中するか、集中しなくてはならないか、集中してしまうか、など実際に体験しました。また、どのような効果があるかも実感しました。70名を越える参加者が、静かに、一人ひとり一心不乱に真剣に取り組んだワークでした。

この研修を明日から役立てたいとする参加者の声が多かったことから、実践的で充実した研修であったと思います。